

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

## (6) 昆虫類 ⑫ ナナフシ目

ナナフシ目昆虫は日本には4科31種が生息し、埼玉県からはこれまでに2科6種が記録されている。外来種や迷入種などは確認されておらずこれらは全て在来種である。本書を刊行するにあたり、この6種を対象に本県における生息状況を調査した結果、その約83%にあたる5種をレッドリスト掲載種とした。

なお、ナナフシ目における分類学的研究は大変遅れており、前版が発行された2008年時点では日本に生息する種数は2科18種であり、このうち本州に分布する種は1科7種にすぎなかった。その後、日本産ナナフシ目の再検討がなされ（市川顕彦, 2014）、日本直翅類学会編（2016）日本産直翅類標準図鑑では、コブナナフシ上科のコブナナフシ科とコノハムシ科、ナナフシムシ上科のナナフシモドキ科とトビナナフシ科に再編され、合計4科31種となった。これらのうち本州に分布する種は3科14種となり、埼玉県に生息する6種では、ナナフシモドキがナナフシ科から名称変更されたナナフシモドキ科へ、他の5種はトビナナフシ科へと変更された。

これまでのナナフシ目昆虫の掲載種数の変遷をみると、初版と改訂版では掲載が無く、前版ではじめてエダナナフシ、ニホントビナナフシ、ヤスマツトビナナフシの3種が挙げられ、そして今回シラキトビナナフシ、トゲナナフシの2種を加えた5種となった。なお、前版で評価をDDとしていたエダナナフシとニホントビナナフシはそれぞれVU、NT1相当と判断した。

本目は熱帯から亜熱帯にかけて繁栄しており、暖地性の種類が多い。食性は全て草食性であり森林的環境に多い。種毎の食性に差異があり、樹林を構成する樹種や気温条件などによる環境特性は高いようであるが、詳細は解明に至っていない。分布域の辺境部では雌のみによる単為生殖を行う種類が多く知られている。多くの種は夜行性であり、昼間は静止して木枝などに擬態している種類が多い。

県内の生息状況は各種の樹林環境に適応した種類が生息しているものと推測されるが、広範囲に見られるナナフシモドキ以外は何れも個体数が極めて少ない。トビナナフシ類3種ではニホントビナナフシが照葉樹であるシイ・カシ林に生息し、ヤスマツトビナナフシが温帯域のコナラ林やカシ類に、シラキトビナナフシは冷涼なブナ・ミズナラ林に生息する事などが知られてきた。これらの樹林環境は安定した環境であり、県内でもまだ広範囲に存在しているにも関わらず、何れの地点でも個体密度は極めて低く、安定した発生状況にあるとは言えない。エダナナフシはバラ科のキイチゴ類やサクラ類、ブナ科のコナラ、タデ科のイタドリなど広い食性が知られているが、県内の確実な記録は乏しい。また、エダナナフシとナナフシモドキやトビナナフシ類3種の間では過去の記録に混同が見られるため、文献記録からの特定が困難な状況となっている。そのため今後の生息状況の蓄積がより重要なものとなる。

トゲナナフシは2014年に県内ではじめて見出された新記録種である（佐藤・和田, 2016）。生息状況を調査した結果、旧来よりの残存的な個体群であると判断されたため今回掲載種とした。県南部の樹林林床に局地的に見つかっている。

一方、現在埼玉県では生息が確認されていないが、過去に東京都、神奈川県で記録されているオオナナフシやヤマトナナフシ、タイワントビナナフシや、エダナナフシの近似種で形態や卵の特徴から近年別種とされたコウヤナナフシとクマモトナナフシについても今後注視が必要と考えられる。

[付記] 次ページ以降の種ごとの解説において、形態や国内分布に関する項目は、日本直翅類学会編（2016）日本産直翅類標準図鑑を参照した。

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

科名 トビナナフシ科  
 (和名) **トゲナナフシ**  
 [学名] *Neohirasea japonica* (de Haan)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2015) -  
 指定状況 -

---

【形態】 体長はメスで 57～75mm。無翅。体色は灰褐色だがまれに緑色。

【国内分布】 本州、四国、九州、南西諸島

【主な生息環境】 主に照葉樹林帯の樹林林床に生息し、夜間に林床の植物を食べる。国内ではメスのみで単為生殖をし、オスはまれ。卵は網目模様のある球形で落下式。

【県内での生息状況】 県内では 2014 年 6 月に初めて加治丘陵（入間市）から、生態写真により幼虫 1 頭の情報が得られ、翌 2015 年 6 月に飯能市阿須、入間市上谷ヶ貫、日高市栗坪で生息が確認された。いずれの地点も川沿いの落葉広葉樹とスギが混在した樹林で、林床にはヒカゲイノコズチやクサイチゴ、ドクダミがまばらに生育する。生息地では個体数が多いが、夜間のみ観察され日中は発見できない。生息確認地点は、安定した樹林環境であり特に新しい改変や植栽、土壌の搬入等が行われた形跡は見られない。本種が無翅で移動能力が乏しいことから自然分布と判断し、今回新たに掲載種として加えたものである。同時期に調査した類似環境（入間市宮寺、入間市下谷ヶ貫、飯能市茜台、飯能市落合、飯能市岩淵、滑川町武蔵丘陵森林公園）では確認できていない。

【特記事項】 神奈川県南部では継続して確認されている（岸, 2014）が、東京都では千代田区と町田市のみから記録されているに過ぎない。近県ランク 千葉：要保護生物。

科名 トビナナフシ科  
 (和名) **エダナナフシ**  
 [学名] *Phraortes elongatus* (Thunberg)  
 埼玉県(2018) VU 環境省(2015) -  
 指定状況 -

---

【形態】 体長はオス 65～82mm、メス 82～112mm。中～大型の種。

【国内分布】 本州、四国、九州 日本固有種。

【主な生息環境】 低山地の明るい林縁の陰に多く、ヤマイモの蔓がからんだところや、イタドリを朝夕にさがすと見つかることが多い。

【県内での生息状況】 過去における記録は外見のよく似たナナフシモドキ *Ramulus mikado* との混同が見られるため、確実な本種の分布情報は非常に少ない。確実なものはいずれも低山帯から得られている。前版において秩父市三峰（旧大滝村）が新たな生息地として追加された。調査では秩父市大滝にて灯火に来たメス 1 頭を確認することができたが複数個体での報告はない。

【特記事項】 個体数が非常に少ないと考えられるため、全県評価を変更した。外見がよく似たナナフシモドキは触覚が本種より明らかに短く前脚腿節より短い。学名は従来 *P. illepidus* とされていたが表記学名に変更された（日本直翅類学会編, 2016）。

科名 トビナナフシ科  
 (和名) **ニホントビナナフシ**  
 [学名] *Micadina phluctainoides* (Rehn)  
 埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -  
 指定状況 -

---

【形態】 体長はオス 36～40mm、メス 46～56mm。

【国内分布】 本州、四国、九州、南西諸島

【主な生息環境】 主に低山地のブナ科植物に生息し、シイ類やカシ類を好む。日本産の本属では本種のみオスが知られる。

【県内での生息状況】 埼玉県における記録は非常に少なく、狭山丘陵と新座市平林寺から記録されているに過ぎない。平林寺の場合は寺社境内という非常に限定された範囲にのみ生息している。

【特記事項】 生息範囲が非常に限られ個体数も少ないことから、全県評価を変更した。近縁のヤスマツトビナナフシ *M. yasumatsui*、シラキトビナナフシ *M. conifera* とは、前翅前縁や触角が赤いことで区別できる。

科名	トビナナフシ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
〔和名〕	<b>ヤスマツトビナナフシ</b>				
〔学名〕	<i>Micadina yasumatsui</i> Shiraki	指定状況	-		
【形態】	体長はメスで42～54mm。前脚腿節は緑色。体色は背面が緑色、腹面は青白色。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	やや山地のコナラ類やカシ類に生息。				
【県内での生息状況】	前版以降、いくつかの産地が追加され、台地・丘陵帯から低山帯に広く分布することがわかってきたが、いずれの産地も個体数は多くない。				
【特記事項】	次種シラキトビナナフシ <i>M. conifera</i> に酷似するが、本種は前脚腿節が緑色で、第7腹節腹板後端に突起物が無いことで区別できる。				

科名	トビナナフシ科	埼玉県(2018)	DD	環境省(2015)	-
〔和名〕	<b>シラキトビナナフシ</b>				
〔学名〕	<i>Micadina conifera</i> Chen et He	指定状況	-		
【形態】	体長はメスで42～54mm。前脚腿節は黄褐色。体色は緑色。				
【国内分布】	北海道、本州、四国				
【主な生息環境】	冷涼な山地のブナ科植物に生息し、ブナ、ミズナラを好む。				
【県内での生息状況】	低山帯から山地帯にかけての広葉樹林帯上部に分布することがわかってきたが、記録が非常に少なく生息状況は不明である。				
【特記事項】	近縁のニホントビナナフシ <i>M. phluctainoides</i> 、ヤスマツトビナナフシ <i>M. yasumatsui</i> とは、第7腹節腹板後端にY字状の突起物があることで区別できる。				

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物